

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052

長岡市神田町1丁目4番地10

TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

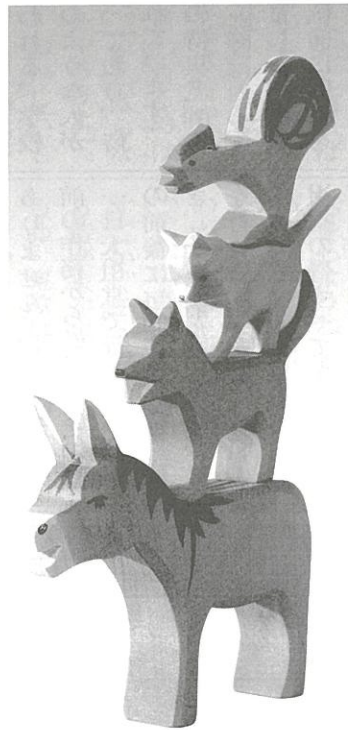
小林国二 小林善秋 高橋潔 加藤由紀子

室賀清輝 近藤マリ子 近藤善信

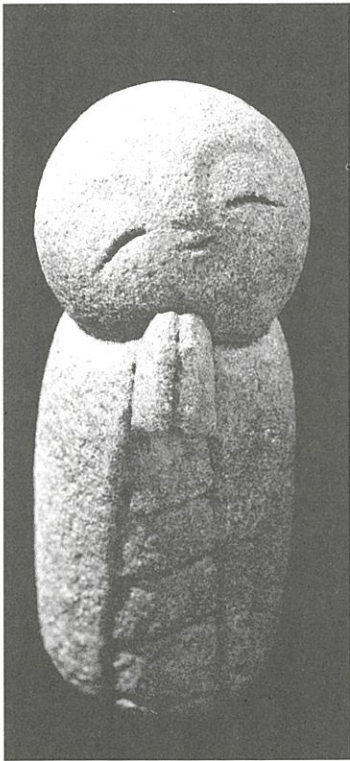
後援・株式会社アサヒ

印刷・(株)北越時報社

たすけあい



ほほえみ



長野市・円福寺 / 藤本幸邦老師のつくられた二枚のポスター

ご家族の皆さままでご覧ください

迎春

世界が日本が平和であります様に
今年も宜しくお願い申し上げます

平成十七年 翠巖龍弘 合掌

上の絵は皆様方にもお配りした長野市円福寺東堂の藤本幸邦老師のつくられた二枚のポスター写真です。

昨年世界に於いては、戦争や紛争で多くの人々の尊い生命が犠牲になり、日本国内でも毎日のように凶悪事件が相次ぎました。

自国、仲間、自分の利益・欲望・快樂などのためには、他人の生命・悲しみ・苦しみ・人権などは気にしない、感じない人達が増えつづけているようにも思われます。

そんな中、昨年七月の中越地方の被害、十月廿三日からの中越震災では、多くのボランティアの人達が自前で県内外から駆けつけてくださいました。被災者の大変さを黙って見ておれぬと、それぞれの出来る事

を一生懸命活躍されている姿をテレビなどで見られた方もいられたと思います。

安善寺も被災したため、大勢の受入は出来ませんでした。二人の大学生の宿を提供しました。神戸からの学生は、阪神淡路大震災の時は中学生でしたが、「ボランティアの人達にだけ助けられ、勇気を与えられたかしのない。今度は自分がやる番だ」と、純心に頑張っていました。正に「たすけあい」です。

彼らも逆に「避難所の人達は大変な目にあっているにもかかわらず、感謝の気持ちを持ち、お互い助け合って生活をしていたら」と、越後人の忍耐強さ・純心さ・自然に対して畏敬の思いを抱いていることに学ぶ事が多々

あったようです。

テレビで何回か被災者のインタビューを見ましたが、本来なら切なく悲しく、誰かに当たり散らしたくなる状態なのに、笑顔で答える姿を見て「溜息」が酸欠状態を解放するように、「ほほえみ・笑顔」が生きる力を与え、助け合う心を芽生えさせるのではないかと感じました。

ほほえみ・笑顔からは争いはおこりません。助け合いからは信頼、友が出来、平和が生まれます。

こんな時代だからこそ、昨年は台風、水害、震災と苦しいことが重なった時だからこそ、「ほほえみ」「たすけあい」を大事にし、世界が日本が平和な年であるよう願いたいものです。

旬歌 愁灯 [その六]

初しらが

加瀬由紀子

小千谷市に住む友人をま

じえての集まりがあった。
「地震でみごとに工場がつぶれてさんさんだわ。完璧な被災者よ。他の友人たちともかく無事でよかったとか、これからまたがんばればなんとかなるから」と口々に慰めのことばをかけた。

すると被災者は言った、「がんばれと言われるのはもうたくさん。『がんばらない！ 新潟』をやるうよ。」「そうだよ。おいしいものでも食べよう！」「風評で二次災害の観光業者を救わねば」。あれよあれよという間に話がまとまり、その週末に日帰りで温泉に行くことになった。

「海をよく見えるあの部屋ね。食事は魚づくしで一人税込み一万円ね！」即、携帯で予約を入れる被災者。いかなる時もグルメの出費を惜しまない決断の早さ。まさに女性ならではの、である。

そして土曜日のお昼下が

り、くだんの宿に女性四人、海を見下ろす部屋で、まずは湯上がり後のビールとしゃれこむ。被災者が、「地震で瓦礫の町の話はだめ！ 美しい話をしようね。たとえばプラハ。あの童話に出てくるようなステキな町並みは感動ものだよ」と本当に明るい。

「それに音楽ホールがまたすごい。チェコは世界中から音楽家が集まってくるからね。東欧は魅力的よね。」行ったことがない人間も中世の建物が並ぶ世界遺産の都市を思い浮かべる。「わたしはハンガリーのブタペストね。夕暮れの王宮の美しさは感動ものだよ。別の友人が語る。というわけだ。いきなり始まった歌はスメタナの『モルダウ』だ。『ボヘミアの川よ、モルダウよ…』美しき青きドナウ、もいいよねえ。」「ダニユール川のさざ波、というの

もあつたね」。美しいメロディを口ずさみながら、ドナウ川に沿って続く美しい町並みを思い浮かべるのだが…「そういえば芋川の土

ダあつたね」。美しいメロディを口ずさみながら、ドナウ川に沿って続く美しい町並みを思い浮かべるのだが…「そういえば芋川の土

ッ！ 現実逃避」。そしてわたしの番になった。「では、美しい歌を披露します。題はたしか『バビエラート』か『初しらが』。」「Babie Iato とはポーランド語で蜘蛛の糸のことである。糸を光らせながら飛行ぐもの飛ぶおだやかな小春日和をこう呼ぶのだ。中国



ムはどうなったんだろう。」「シイッ！ 禁句！」「シイ。でも「遊糸」といってこのような秋晴れを指す。わた

しはこの歌を駐在員だった友人から聴かせてもらって以来、ぜひ原曲を聴きたいと思っっているのだが。

くもの糸がゆつくり流れる秋の日の公園
遠く子守唄をマンドリンで弾くのは誰かしら
キスしよう、あなたの初しらが
こめかみのところに光っている
ほんとに美しい秋、ねえ
静かでおだやかで
ほら見て、くもの糸が流れる、銀いろの糸が

「わあ！ ロマンチック！」「老いを美しく歌う感覚って日本にないよね。くもの糸と初しらがをかけた詞が心にくい。しかも男女どちらにも解釈できる。

「ポーランドといえば、ピアノの詩人、ショパンだわ。そこでわたしはわが携帯電話の着メロ、『ノクターン』のけだるい音色を披露。『ショパンの曲って美しい調べが多いよねえ』。

「さかのぼればレーニン、ロシアへの蜂起、そしてナチスの侵攻、大戦後の内乱。おびただしい数の死者と流民。一例を挙げれば、ナチスによって六百万人のポーランド市民が犠牲になった。ポーランドの歴史は亡国の歴史でもある。」「アウシュビッツとか収容所もたくさんあつたよね。」

かつてストックホルムで知り合ったポーランド人の少女に誰を尊敬しているかと問うと「ポルスカ(ポーランド)！」と応えてわたしを感動させた思い出がある。祖国、民族、故郷への熱い思い。顧みてこの問いに日本のこどもたちが「日本」と応えることはまずないだろう。「だからこそ彼らは瓦礫の街から『自由』を掲げて立ち上がったんだね」。被災者がしみじみと「地震の災難から立ち上がる新潟に共通してるね。」同納得。

故郷、新潟の復興へ向けて帰ったらまたがんばるのだ、そのためのひと休みなのだとなづきながら。

昨夜金鳥飛んで海に入り、暁天旧きに依って一輪紅なり

読者からの

便り

国際心を養い、異国を知り、祖国を愛せ!

長岡市●酒井美与吉

九月二十三日、安善寺本堂で彼岸法要が厳肅にとり行われた後、参詣の壇信徒は長岡市国際交流センター長の羽賀友信先生の講話を拝聴しました。

当日会場に居られなかった方々のために、講話のご主旨を要約します。

一、私は中学時代「アラビアのロレンス」という本を読んで感動しました。イギリス人トーマス・ロレンス(二十一歳)が船でトルコに行き、シリアを徒歩旅行してアラビア語を学習、後にエジプト考古学研修、一九一四年第一次大戦勃発、二十六歳でカイロにあったイギリス陸軍情報部員として勤務。

当時、オスマントルコに支配されて苦しんでいたアラブ原住民に同情し、トル

コに対する反乱を助け、率先して戦い、ついにアラブの解放に成功して、アラブの英雄と讃えられた物語。

二、私は学生時代から今日までに、世界の五十ヶ国を旅行しました。特に中東諸国には馴染み深く、四年の生活経験があります。

今年六月にアフガニスタンに行つて来ました。

この国は二十三年間戦乱に苦しみました。昔から国内の各部族の闘争が絶えず、一時共産政権ができ、それを支援してソ連が介入、それに対抗して反政府ゲリラが擡頭。それをアメリカを中心として西側諸国が応援。こうして米・ソ両国の代理戦争の戦場となりました。

そして今でも地面には両陣営が敷設して未処理の地雷が残存しています。

三、この国はインドに近く、早くから仏教を受け入れ、バーミヤンには世界最大の大石仏があります。

その一部は破壊されましたが、新政府は、この遺跡を修復して、その地域に歴

史博物館を建てようと計画しているようです。近代国家には文化の「顔」が必要だからでしょう。

四、この国は世界最貧国と言つてもよく、成人の年収は八〇〇ドル(日本円で年九万円)と聞いてます。



国の財政は苦しく、教育の分野でも教員不足、教科書不足、学校不備などに悩んでいます。生徒達も放課後、家業の手伝いや他の仕事に就労して、忙しいらしい。

五、首都カブールの高校を訪問した私は、生徒達と話す機会を与えられました。私は生徒に英語で質問し

てみました。「あなたの将来の夢は?」「僕は法律家になって国造りに役立ちたい」「僕は医師になって人々を助けたい」「私はジャーナリストになって、女性を助けて国造りに貢献したいわ」(前政権タリバンは女

性の就学を禁じたのです)

どの生徒も希望に輝いているように見えました。貧困にもめげず、学びたいという意欲に燃える青少年こそは国の宝です。

六、我が長岡も内乱と外戦で二回も壊滅的な戦災を受けましたが、その廃墟の中から立ち上がった先人た

ちの努力で、立派な文化遺産を持つ近代都市として復活しました。

七、これからは、人間教育が大切です。人は一人だけでは生きられません。人の悩み、苦しみ、喜びを分かち合い、互いに理解し合つて、国造りに努めましょう。

幼い子供にもコミュニケーション(意思伝達)能力をつけてやりましょう。幼児にはテレビでなく、母との対話が必要です。

八、国も孤立しては生きられません。真に祖国を愛するならば、広く世界を知り、異国を理解し、文化の交流を通じて、世界に多くの友をつくるべきです。(完)

今時の若い者

長岡市中島●板山絢子

次男の造った家が(空家です)来迎寺に一軒ありますが、七月三十日の猛暑に出かけた帰りに来迎寺の駅までかなりの距離があります。そのを歩いていたら、だんだん頭が痛くなり、倒れそうになってやっと着き、駅員の方をお願いして一時間

ほど休ませていただき、電車に乗りました。

そしたら、いつもの時間と違っているせいか、席がありませんでした。「あゝ、しかたがない、たいした距離でなし、立って行こうか」と思っていたら、そばの六人組の体の大きいのですが、しゃべり方を聞いていると十代後半の男の子が立って、「どうぞ」と、すぐ席を譲ってくれました。私は、これならこれから先の日本は大丈夫と思いました。

コーヒーカップが一つしかなかったので六人で廻し飲みしなさいと言ったら、本当に楽しそうに廻し飲みをして、私は毎日テレビで悪いことばかり見ていたので、心から嬉しくなりました。

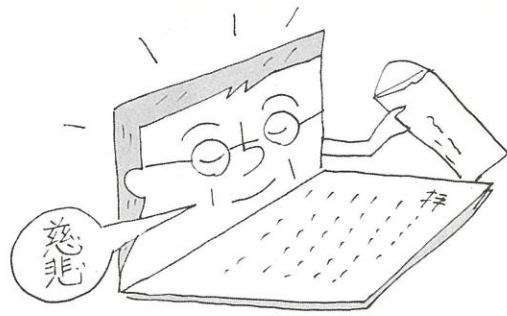
今時の若い人もすてたものではないと思いました。

慈悲の心をもらって

長岡市七軒町●山口健一

我が家を襲った「七・二三水害」は、自分の宗教に對する思いを変えることになったようです。若い頃より「神佛を尊と

めども神に頼らず」、また唯物論、弁証法的唯物論の書を読み漁った自分にとって、この水害は多くの方々から頂戴した労りの電話や金品、中でも曹洞宗の官長様からのお見舞いの手紙、菩提寺安善寺様より届けられた「名水」は、どれだけ自分の心に安堵感を与えて



くれたか、この安堵感は何だったのだろう、それは一緒に涙する労りの心「慈悲」を戴いたと気がつきました。その結果、精神的に癒された自分の行動が、妻にも落ち着きと安心感を与え、

笑顔となり、前向きな行動に表れてきました。

この水害で受けた大勢の方々の励ましを転機として、これからの人生を精神的に宥寧の中に過ごしたい、攻撃的でなく、豊かな精神で。それを教えてくれた七月十三日からの数日ではあったと思います。ありがとうございました。

父を思う

長岡市亀貝 ● 水沢康子

明日十五歳になると云う日、父は百二十四名の人達と命を落としました。待つても待つても帰ってこないで、十七歳の兄と叔父が探しに行き、かわりはた父と帰ってきました。一月にしては青空だった事を五十年経った今でも忘れない。

大晦日が終わると身を清め、仏壇に向かい、お経をあげる。涙が年とともに流れる。四十七歳の年とはつくに過ぎたのに、今ごろ生きていたら、ニコニコしながら大好きな酒を飲んでいたら。孫を見せたかった。涙、涙、父を迎えに行つた

第四回「KAKA笑」の会報告

「ギター演奏と講演の夕べ」

さわやかな秋の夜風が心地よい九月十七日、第四回「KAKA笑」の会が安善寺本堂にて、百名近い参加者を集めて開催されました。

第一部はギタリストの島山徳雄さんによるコンサートの。曲目は「花祭り」のオーブニングに始まり、テレビ主題歌から「冬のソナタ」「地上の星」。懐かしの名画音楽から「禁じられた遊び」「第三の男」「太陽がいっぱい」。古賀メロディメドレーで「影を慕いて」「酒は涙か、た

め息か」「湯の町エレジー」。クラシックから懐メロまでまさに「ギターの魔術師」の面目躍如でした。アンコールにも快く応じられ、会場は盛り上がりました。高度なギターのテクニクに、木造の伽藍のすばらしい音響効果が呼応してコンサートは大成功でした。



第二部はモヨ・チルドレンセンター主宰の松下照美さんによる講演「ハラランベの国ケニヤに生きる」。ケニヤから同行したジョージ・オワデ氏も加わって、八年間に及ぶNGO活動をスライドを交えてお話しいただきました。



シンナー中毒にかかったストリートチルドレン、エイズで両親を亡くした子どもたちの話は屈託のない表情故に悲しみを誘います。

主たる原因は貧困にありますが、松下さんは貧困の打開策は「教育」にあり、と教育及び保護センターの建設実現に向けて、日本全国で講演活動を展開されています。英語も話せなかった日本女性がたった一人で遙かなアフリカの地で、献身的な活動をされてきた報告に、会場から暖かい支援のことばや、カンパがあい継ぎました。では次回の「KAKA笑」の会の楽しいイベントをご期待ください。

お別れ

(平成十六年八月〜十二月末)

中野春江様 八月十一日寂
群馬県前橋市

根岸マツ様 九月 七日寂
長岡市川崎

根岸 晃様 九月十二日寂
長岡市新町

桑原徳次様 九月十四日寂
三重県多気郡

菊田紀明様 九月廿九日寂
長岡市蔵王

平岡幸子様 十月十八日寂
刈羽郡刈羽村

小林良次様 十月廿一日寂
長岡市山田町

加野政治様 十月廿一日寂
東京都足立区

上村正一様 十月廿七日寂
長岡市東神田

菅金三郎様十一月十一日寂
長岡市東宮内

田中春世様十一月十二日寂
長岡市南町

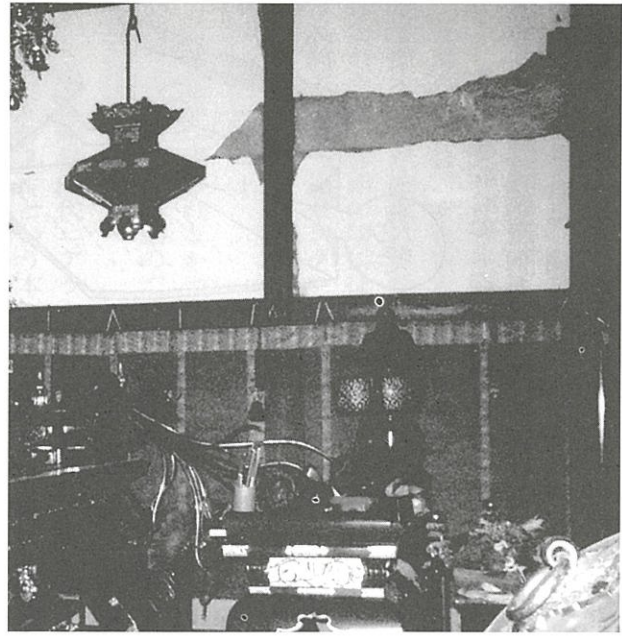
内藤信司様十一月十七日寂
長岡市呉服町

渡邊 進様十一月廿九日寂
長岡市東坂之上

遠藤隆夫様 十二月十日寂
長岡市今朝白

ご冥福をお祈り申し上げます。

中越大震災 — 安善寺における被害状況

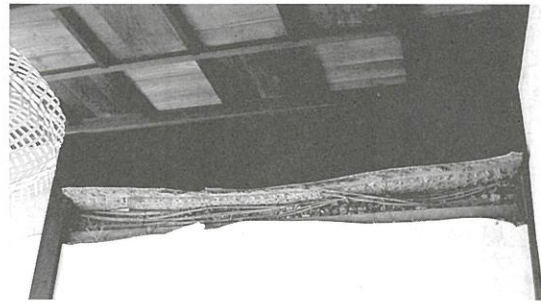


壇信徒の皆様方に於かれ
ましても、多大な被害を被
られた方も多数おられたと
存じます。心よりお見舞い
申し上げます。

平成五年、皆様方のお力
によって本堂大改修をして
戴いたお陰で、この大震災
でも、本堂・位牌堂・玄関
棟は無事でした。もし改修
されていなければ、本堂は
壊れていた可能性が大であ

つたと思うと、大変有難く
感じります。

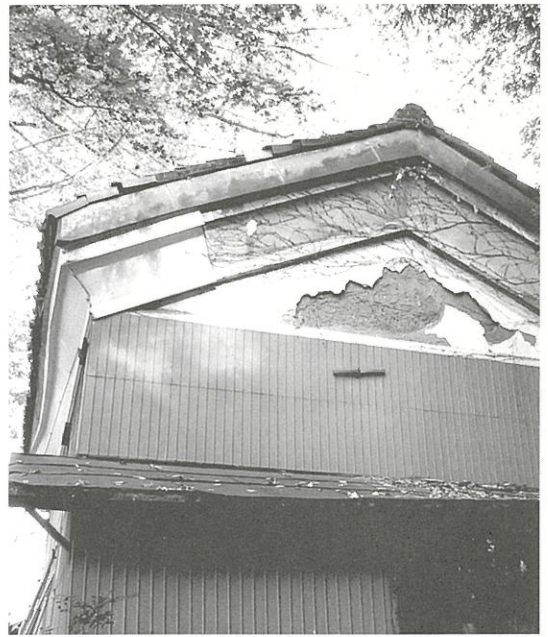
しかしながら内部は相当
の被害を受けました。右、並
びに左下の写真は壁が落ち、
仏具が散乱している様子で
す。壊れた仏具も多々ありま
したが、本尊様はじめ仏様
方は落ちもせず無事でし
た。ただ、壁は専門家の意
見では全部やり直さなけれ
ばならないとのことす。



壊れた仏具は十二月末に
全部直しが終わり、正月に
は間にあいました。

中段の写真二枚は、右が書
院の壁が抜けたようす、左が
離れ座敷の床の間の壊れた
ところを写したもので、市か
ら「半壊」のり災証明がださ
れました。右下の写真は位
牌堂内のもので、ほとんどの
位牌が落ち、相当数が壊れ
ました。応急処置はして戴き
ましたが、後は個々に直して
いただきたいと思えます。





右の写真二枚は土蔵です。今回の地震では瓦・壁・タイル・土蔵が特に被害を受けたといわれておりますが、安善寺の土蔵も壁が抜け、大規模半壊の状態です。土蔵内のものを移してからの取り壊しとなります。



燈籠です。今回の地震ではほとんどの燈籠が崩れました。鳥居も壊れ、新しいものと交換しなければならなくなりました。稲荷堂内は比較的被害が少なく、お狐



さまが一体壊れましたが、修理し安置しました。

右は倒壊したお墓の写真です。安善寺の墓地は被害が少ない方と言われながらも崩壊したお墓が三基、石塔の落下したものは三十余基あり、石塔・台座などが動いたものを合わせると二百五十基余りありました。直接石材店に頼まれた方もおいででしたが、頼まれて寺を通して石材店にお願いしたのも二百基以上ありました。

下の写真は墓碑を直しているところですが、安善寺の墓地に入られた石屋さん



新潟県中越地震ボランティアレポート
ボランティアするのに理由は要らない
小出正三

「今度、東海地震の時にはよろしく願います。」
そう言って名古屋から来たという高校生4人組は元気に

「これが震災から3週間目の土曜日の出来事。その日、私はボランティアとして市内でも比較的被害の大きかった柿小学校に入っていました。市街地では地震があったことがウソのようであるが、この辺りではまだ多くの地域が避難地区に指定されており、多くのボランティアが立ち働いていた。ある五十代後半の男性などは：「会社で喧嘩して飛び出しちゃって、そしたら台風に地震でしょ。もう半月も帰ってないんだよねえ。」
ボランティアという言葉の響きには、何となく崇高なイメージが浮かぶのではない。しかし、柿小学校にはそういう張りつめた感じはなく、まるで日常の延長としてボランティアに参加しているようだった。

「聞けば、前日の夜に名古屋を出発。その後、夜通し移動して早朝に長岡入りして柿小学校へ。中にはバスの中で全然眠れず、少々疲れ気味の子もいたが、それでも元気にボランティアをこなして、その日の内にまた長距離バスで帰宅するのである。」

これは震災から3週間目の土曜日の出来事。その日、私はボランティアとして市内でも比較的被害の大きかった柿小学校に入っていました。市街地では地震があったことがウソのようであるが、この辺りではまだ多くの地域が避難地区に指定されており、多くのボランティアが立ち働いていた。ある五十代後半の男性などは：「会社で喧嘩して飛び出しちゃって、そしたら台風に地震でしょ。もう半月も帰ってないんだよねえ。」
ボランティアという言葉の響きには、何となく崇高なイメージが浮かぶのではない。しかし、柿小学校にはそういう張りつめた感じはなく、まるで日常の延長としてボランティアに参加しているようだった。

「聞けば、前日の夜に名古屋を出発。その後、夜通し移動して早朝に長岡入りして柿小学校へ。中にはバスの中で全然眠れず、少々疲れ気味の子もいたが、それでも元気にボランティアをこなして、その日の内にまた長距離バスで帰宅するのである。」

端からは「どういう理由で参加するの」とつい考えてしまうのだが、彼らにとっては「参加するのに何か理由があるの」という位の当たり前感なのである。
さて、これらから私たちは何かを学べるだろうか。
私は一つ大きな事を学んだ。ボランティアをするのに理由は要らない。ただ、働くだけ。私にはそれだけで十分である。
当たり前のことを当たり前前に出来る。不合理な事ばかりの世の中では、結構な幸せではないか。

温かい親切に感謝



ので心丈夫でした。

その後頻繁に大きな余震が来ましたが、揺れる度にさくらは、お母さんにピッタリくっついていました。体も大きいし、怖そうだけど臆病なんだなーと思いましたが、私もさくらみたいに出来たらなあーと、少し羨ましくなりました。

眠れぬまま明るくなり、

私は早めの食事を済ませて二階のストープの前で毛繕いをしていたら、突然ドスンという音とともにテレビが倒れ、電気が消え、お母さんが私たちを呼んでいる声がありました。真っ暗なお兄ちゃんに抱かれて下に降り、とにかく外に出ました。その日は現在の家族三人と二匹全員が家にいた

自然の猛威にかかったら何時、何処で、誰が被災者になるかわからないものです。今年には本当にたくさんの台風が上陸しましたが「長岡は何年も雪が少ないし、台風も避けてくれるし、食べ物も美味しいし本当に住み良い所だ」なんて誰かが話していたのに、何がおきたのかわかりませんでした。

ペコのひとりごと

で私やさくらも安心して家の中を歩きました。

そうこうしている内に中国の留学生が五人で手伝いにきてくれましたし、次々とお兄ちゃん・お姉ちゃん達も帰って来てくれ、お檀家の方々も手伝いに来て下さったので、あつという間にとりあえずのお掃除は終わりました。

その上、被害の少なかつた檀信徒の人達が温かいご飯や熱いお湯を届けてくださったので、お母さんはそんな温かい親切に目頭を熱くしていたようです。ニヤーン

編集 雑感

新年を迎え皆様には素晴らしい年々には素晴らしい年々でありますよう祈念申し上げます。本年も季刊誌のご愛読・ご投稿を宜しくお願い申し上げます。昨年の新潟中越地震に被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。新年号にあたり出来るだけ明るい話題を掲載するよう心がけておりますが、広い地域において被災した今回の地震の現状報告をせねばならないだけに多少暗い話しでの新年号になったことをお詫び申し上げます。

被災された地域・状況で違いはありますが、地震で何が一番必要か？ 小生の経験では「情報」でした。晩秋の夜でしたから懐中電灯・ラジオ・毛布等諸々意見がおりでしようが、家族の安否確認・地震の規模・被害等の情報。ライフラインが止まり、且つ携帯電話が通じないと何も判らない不安は計り知れないものでした。

車中泊は辛いものです。夜では家の状況も判明しなく余震は続き、眠れぬ夜は別世界にいるようでした。夢なら覚めて欲しい思いで一夜を過ごしたものでした。もう過去の話になりました。新年を迎えたのですから気持ちを切り替えて、地域の復興を皆さんと共に頑張りたいと思っております。

この広報もスタッフ一同より良い広報になるよう切磋琢磨し頑張る所存です。皆様のご投稿が頼りですので応援を直しくお願い申し上げます。小林 梓

「春めける山河消え 去る夕かげり」(虚子)



お便り原稿用紙

季刊誌では、檀信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。